

## 技術+ $\alpha$

### —これからの学会の あり方について—

会計理事 江村克己



電子情報通信分野における技術進展には目を見張るものがあり、知らず知らずのうちにだれもがその恩恵に浴するようになりました。今やネットワークに接続するだけで、必要とする情報は、だれもが専門家になったかのごとくの詳しさを入手することができます。ブロードバンド化の進展は、世界をフラット化し、産業構造の急速な変革をもたらしています。そこでは国境を越えたグローバルな人的ネットワークが新たな競争のベースとなっています。

本学会もソサイエティ独立採算化、オンライン化やグローバル化を鋭意進め、新しい学会への転換を進めています。一方では、企業関係者を中心とした学会離れが問題化しています。電子情報通信分野に興味を持つ学生が減っているという根深い問題もあります。我々がこれまでよりどころとしてきた理論や法則、ロードマップとは明らかに異なるものが大きな流れを主導し始めている中で、電子情報通信分野の将来像をはっきり示しきれていないところに上記問題の根源があるのではないかと思います。今年本学会は90周年を迎えています。会員にとってこれからも真に魅力的であり続ける学会であるためにはどうすべきでしょうか？

今から30年前に当時の小林宏治 NEC 会長が C&C (Computer & Communication) を提唱しました。その数年後にはその考えを一步進展させ、Computer と Communication が作り出す技術の平面と垂直に人間軸を描いて、Man and C&C を訴求しました。技術の進展と人間とのインタラクションにより、初めて豊かな社会が実現されるという思いがそこには込められていました。この30年、Computer と Communication の技術は、当初想像していたものをけた違いに上回る勢いで進展し、両者の融合も進みました。それに比べると、人間軸での進展は、はかばかしくありません。

- ・ 確かに非常に便利になりましたが、時間に追われるばかりではなく、ワークライフバランスのとれた豊かな生活を送っているのでしょうか？
- ・ 便利さにだけ目を向けた結果が地球温暖化やエネルギー問題につながっていないのでしょうか？

私たちはサイエンスに立脚した技術(いわゆる Technology)の進展を追及しています。上記 C&C 面上での進展がそれに相当します。ここで開発された技術は、様々なスキルやノウハウ、ビジネス的な視点と合わさることで初めて実用に結び付けられます。今や強力なコンピュータパワーを持つゲーム機や携帯電話が身近に普及、ブロードバンド回線も各家庭に敷かれ、高性能な技術が本当に遍在するようになってきました。これを豊かな人間生活につなげるためには、技術の外(+ $\alpha$ )にも目を向けることが非常に重要になってきています。

学会には専門性が高い研究者が集まっています。大会、研究会で行われる成果発表や学術論文文化が重要であることは論を待ちませんが、最新情報の入手手段がネット上にもあまた存在するようになってきていることを考えると、これからの学会は、これらの活動だけでは十分とはいえません。ともすれば意識が専門領域の深い議論に向かいがちなところを、その一歩外にも目を向け、文化や倫理、経済、更には人間性にまで踏み込んで考えることが重要です。意識を広げることでこれまでとは違った将来展望が開けると期待されます。これから技術が進むべき道も、これまでの性能一筋とは異なった評価軸で見えてくるのではないのでしょうか。幸いなことに本学会には異なるバックグラウンドを持つ人が、産官学から幅広く集まっています。そのカバーする技術領域も非常に広範です。これに更に人文系の人を加えて学際領域の議論をしたり、異なった考え方を持つ外国の人と議論を行いグローバルな連携を考えたりすることが有効と考えます。若手や女性の考えを積極的に取り入れること、先駆者の知見に耳を傾けることも必要でしょう。また最近利便性の向上の裏返しとして、一つのことにつきじっくり時間をかけて議論することが少なくなっているように思えますが、議論を昇華させ新しいアイデアに結び付けるための進め方も考える必要があります。

上記のような議論ができる場を提供すること、そこでの議論を通して豊かな将来社会を構築するためのビジョンを提示することをこれからの学会は意識すべきであり、それが学会活性化にもつながると考えます。技術革新が進んでいますので、その実現方法はサイバー空間の活用を含め、種々考えられると思います。電子情報通信学会に行けば、日常の環境では得られない場と知見が得られると多くの会員に思ってもらえる学会への変身を意識して、その具体策を皆さんと是非一緒に議論していきたいと思えます。